

# 鬼の姿はどのように変わっていったのか？

12班 北村 西川 吉信

## 仮説

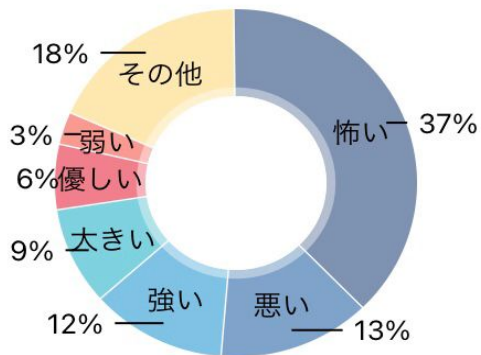
- ①: お伽草子の広まった室町時代ごろに現代の鬼の姿が確立したのではないか。
- ②: 時代とともに鬼の役割は変わってきたのではないか。

## 検証方法

- 1: 奈良高校の生徒20名と教員25名に鬼のイメージに関するアンケートを行った
- 2: 鬼の出てくる文献を集め、特徴をまとめた

## 検証1

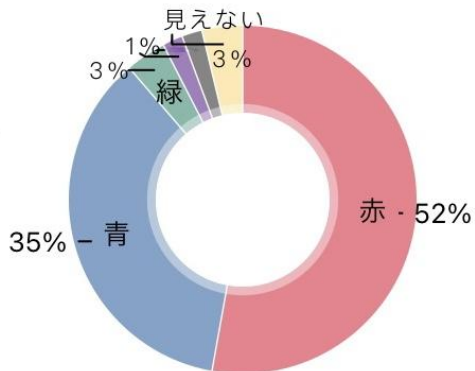
### 現代の鬼の印象



※ 複数回答可

※ 総回答数に対する割合

### 現代の鬼の色のイメージ



## アンケート結果からわかったこと



- 全世代共通の一般的な鬼のイメージ
- 鬼は目に見えないと思っているのは50代以上の人に限られる
- 鬼の姿は主に3つに分類できる
  - A: 上記のような鬼
  - B: 妖怪に近い鬼
  - C: 目に見えない鬼

⇒ 鬼の姿は時代とともに変化しているのでは？  
姿の違いは成り立ちの違いによるものでは？

## 検証2

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

明治時代



伊勢物語

地獄草子

北野天満宮縁起絵巻 春日権現絵巻

土蜘蛛草子

百鬼夜行絵巻

一寸法師

雪山童子図

大江山酒吞退治 月光随筆桃太郎

三つ目など個性的

長い艶やかな髪

妖怪を襲う

今っぽい

角なし



角あり



天パ



筋肉



考察

① 平安時代ごろから現在に近い姿の鬼もいたが、時代が進むにつれて画一化されていった

② 見えない鬼(元:怨念・負の感情)→見える鬼(元:人間・妖怪)